

# 令和3年度第1回徳島県地域公共交通協議会

日時：令和3年9月3日(金) 10時00分～

会場：徳島県庁 大会議室（オンライン開催）

## 1. 開会

### 【事務局】

- ・事務局開会のあいさつ
- ・配布資料の確認

## 2. 議事

次の議事について協議し、下記の結果となった。

- (1) 地域公共交通協議会設立について
- (2) 地域公共交通活性化再生法の一部改正について
- (3) 計画策定業務委託者選定結果等について
- (4) 地域公共交通計画骨子（案）、利用者アンケート（案）等について  
※事務局から【資料1】～【資料5】について説明

以後審議

### ●委員：

利用者アンケートについて確認したい。バスからいかに鉄道に乗り継いでもらうかが課題と考えている。

JR牟岐線では、パターンダイヤが設定され、利用者も南小松島駅、阿南駅で乗り継ぐ方向に進んでいる。並行路線の利用者も減少したので、鉄道に変更するというのがわかった。一方で徳島線沿線の利用者は、まだ鉄道に乗り継ぐという発想がない。どうすれば乗り継いでもらえるのか知る必要がある。感覚的に、石井までならバス、鴨島なら鉄道を選択するのではと考える。その辺りも踏まえ、調査箇所を検討して欲しい。

### ●事務局：

参考にさせていただく。

### ●委員：

ビジョンに基づいた持続可能な最適な公共交通ネットワークを確立するという点については、非常に重要な施策であると認識している。

資料3における、目標達成に向けた事業策定、特にモーダルミックスの推進や新たな需要の創出、共通乗車券の導入検討などは重要だが課題が多いと考えているので、この

会議を通じて関係者と実現化に向けて取り組んでいきたい。

●事務局：

アンケート調査を踏まえて検討させていただく。

●委員：

アンケートの回収数はどの程度を考えているか。

●事務局：

徳島県の本業務の仕様にに基づき、300 票程度回収を目標としている。そのために、一般的な回収率 30%を想定すると、1,000 票は配布したいと考えている。対象バス停の乗車人数は、令和 2 年度の乗降調査からは平日で 1,000 人程度であり、休日も同程度とすると最大 2,000 人程度が対象となりうるが、全員に配布できるわけではなく、新型コロナウイルスの影響が生じていることも考えられる。

●委員：

母数が多いほうがより正確にニーズを把握出来るため、可能な限り母数が増える様に工夫してもらいたい。また、何のために鉄道やバスを利用するのか、という点が大事であると思う。そのため、バス利用者だけでなく、バスを利用していない人が、どうすれば利用してくれるようになるか、という視点から非利用者の意見も聞いてみてはどうか。

●事務局：

参考にさせていただく。

●委員：

利用者アンケートの再編に向けた設問の部分について、乗継ぎを許容する度合いについての設問は、利便性の低下に対する反応を聞くためには意義があるが、初乗運賃の増額や待ち時間増加等により基本的にはネガティブな回答しか得られないと思う。公共交通の再編時に行う取組は、バスを細分化して合理化する取組だけではなく、乗継ぎ発生による利便性低下に対して、運賃や待ち時間等のサービス面での対応も考えられる。たとえば、乗継ぎをしても（初乗運賃分がかからず、）安く帰れるなどの利便性向上策が考えられる。再編案の検討においては、乗り継ぎをベースにする場合、（乗継ぎ抵抗低減のために）どのような対応が必要かという把握も一つのポイントとなるので、そういった要素まで含めて考えられるようにする必要がある。

交通事業者も乗継ぎについて工夫をしているので、そうしたアイデアを聞きつつ、利用者のニーズを把握することが重要。学生であれば行きは大量輸送が必要になり、帰りは部活でばらけるので本数が多い方がニーズに合致するなどあると思う。幹線バスの再編に限らず、鉄道等の利用者数やニーズも含めて調査の検討をいただきたい。

コロナ後に利用者が離れないように、限られた輸送資源の中でも利便性をどう確保していくのか検討してもらいたい。

●事務局：

共通乗車券の提案等も含めて検討させていただく。

●委員：

アンケート調査対象について、自宅が駅やバス停から遠い人や身体的な理由により公共交通の乗り継ぎが難しいという人もいるが、配慮が必要な人の視点が不足していると思う。そういった方の意見も把握いただき、多様な意見を反映していただければ利用者が増加するし、地域の中でも利用しやすいものになる。

また、多様な担い手の把握という観点について、今回、基幹交通（JR、路線バス）以外の交通モードについても着目し、活用を検討されるということなので、NPO 法人が実施されている輸送サービスなども含めて、幅広く把握できるよう進めていただきたい。また、基幹交通の代替とする場合には、人や資金の問題も出てくると思うので、その辺りも考慮した上で多様な施策の検討を進めてほしい。

●事務局：

参考にさせていただく。要介助者等の視点も含め、代替時の運転費用等も踏まえて検討させていただく。

●委員：

工夫提案の県内全市町村へのアンケートについて、多様な担い手を把握するという時に、交通まちづくり担当課を対象に照会すると思うが、福祉的な分野のところも多いので、交通、まちづくりの観点のみで回答するのではなく、事業者の紹介なども含む福祉の観点もフォローいただければより把握が確実になると思う。

●事務局：

福祉関係の視点も含め、検討させていただく。

●委員：

大学生へのアンケートは別途行うとのことだが、高校生も通学時に鉄道やバスを利用している。高校生の通学について運行に配慮していただいているのでアンケートをしても現状に満足という回答が得られるのではないかとは思っているが、コロナの影響による分散登校など、帰宅時間や通学時間がずれていることもある。高校の意見を個別に対応することは難しいと思うが、学校からの意見が出せるようなアンケートにしてもらいたい。

●事務局：

バスを利用している高校生についてはアンケート対象も含まれると思う。全ての高校生に調査を行えるわけではないが、QR コード読み取りによる WEB での回答等も活用して調査に回答いただければと思う。学校への照会については、当初検討したが調査結果が高校生の意見に偏ってしまうのではないかという意見も出た。調査結果に偏りが出ないよう状況を確認しながら、今後検討し、必要に応じて教育委員会にもご相談させていただければと思う。

●委員：

アンケート調査箇所について、川島から徳島バスが出ており、県中や徳大病院に通う人

は、バス利用者が多い。調査の中にもう少し西（鴨島）も含めてほしい。

●事務局：

調査配布箇所については、本協議会でいただいたご意見を踏まえ、改めて検討進める。

●委員：

平成24年度末をもって、民間路線バス業者が赤字を理由に、本町から撤退したため、平成25年度から、本町全域をカバーした市町村有償運送のコミバスを走らせている。

このコミバスは、すべて、JRダイヤを基にJR貞光駅に連絡しており、独自の交通手段を持たない町民にとって、町外へ出向くためには、JRが必要なので、これ以上ダイヤを減さないでほしい。（今年のJRパターンダイヤ化で6便減となり不便となった）

また、全体的な提案として、徳島県内の路線バスについては、基本的にJR鉄道各駅に確実に連絡するようにし、JRと並走する等のバスの無駄な走りを無くし、JRを保護する必要があると思う。

- ・JRが無くなれば、大量輸送手段が無くなり、大変な事態が起こる
- ・JRは細切れにははしれないが、バスは自由に走れる
- ・バスの赤字路線については、行政が対応し、比較的黒字になりそうな路線のみを民間バス会社が対応

### 3. 閉会

- ・本協議内容について意見がある場合、9/8(水)までに事務局まで連絡いただければと思う。

—以上—